

エスユー通信



社長挨拶

誰かの為に、安全と品質を

皆さん毎日の作業お疲れ様です。

5月に入り寒暖差が大きくなり、夏日を記録することも多くなりました。

気温差、気圧差は、人間の情緒を不安定にします。この差の多い日が注意力不足になるのです。皆さんで声を掛け合い、意識して注意力不足を防ぎましょう。

5月は事故が大変に多く、止まらない状態です。個々の対策会議等は進められていることと思います。今一度、事故が発生するデメリットについて確認をしていきます。

①ドライバー本人、作業員本人が、事故により怪我をしたり、最悪は死亡したりすること。これだけは、防ぎたいと思います。

②事故の相手が怪我をしたり、死亡したりすると、社会的制裁を会社も個人も受けるということ。

③会社の利益が損なわれ、本来貰えるはずだった賞与や手当が支給できなくなる。ご家族全員の損失になる。

④今、運賃の値上げについて政府をはじめ、あらゆる機関が支援しているのに対し、品質で劣るとその交渉も出来なくなること。

⑤営業所(チーム)で達成しようとしている目標に、一人のミスが反映し、全員が評価を得られなくなること。

以上が主なデメリットです。

私たちの会社は、「一緒に努力した成果を分かち合い、一緒に喜び合う」ことを目標にしており、ご家庭にもその恩恵が届くことを目的としています。

ですから、ドライバー、現場の方たちは、「安全と品質」に対し努力することが第一です。それ以外はありません。

皆さんのチーム(営業所・班・ご家族)意識が少し薄れている気がしてなりません。

事故は起こそうと思って起きるものではありません。但し、事故を起こさない為の努力は必要です。無意識や少しの不注意でも、事故の可能性は発生するのです。

人は、自分自身の為だけだと努力にも限界があります。これからは、「誰かの為」(チーム・班・ご家族・恋人他)に、「安全と品質」に努めてもらいたいと思います。

宜しくお願い致します。

代表取締役 清水 英次



品質通信

<習慣化の重要性>

習慣化とは何でしょうか？無意識で繰り返し行動している状態です。ルーティンを感じてみて下さい。では習慣化がなぜ重要なのか？良い習慣作りをし「無事故・無災害」に繋げるためです。現場で動いている方にとっては、**イレギュラー発生があると、予定や予想が狂い焦るケースが多々あります。**焦りが生じるとエラーも起きやすいです。特徴としては【**確認をする前に体が動く**】例えば…



◎車の運転

進路変更⇒**確認と動作が同時**になる

一時停止⇒**右を見て左を見ると同時にアクセルを踏む**

◎フォークリフトの運転

後退時⇒**後ろを見ると同時に後退する**

皆さんの習慣はどうでしょうか？焦った時にどうするかではなく、日頃の運転・行動の中で、**確認をするまではハンドルを切らない、アクセルを踏まない、確認ができるまで動かない**といった意識を強く持ちましょう。ですので日頃から『**動く前に確認**』の習慣を作り、習慣化に繋げましょう。



<把握しておこう>

運転姿勢…認知タイミングが変わる、疲労感も変わる

停車中の車間距離…普通車 1 台分

進路変更時の動作…確認⇒合図⇒確認⇒動作

坂道発進補助装置…作動しているか目視確認⇒あくまで補助



| | 速度 | 車間距離 【制動距離】 | 車間距離 【追いつき距離】 |
|-----|------------------|---|------------------|
| 実車時 | 法定速度から -1.0キロ | 速度 = 車間距離 (4.0km/時 = 4.0m) (6.0km/時 = 6.0m) | 路面乾燥時の2倍の車間距離 |
| 空車時 | 法定速度 | 速度 = 車間距離 時速4.0km/時以下 = 速度 - 1.5m (40km/時 = 2.5m) 時速6.0km/時以上速度 = 車間距離 (6.0km/時 = 6.0m) | 路面乾燥時の2倍の車間距離 |

※車間距離 = 急停止時に安全に止まれる距離です。

早く届けるのが仕事ではありません。安全に確実にお届けするのが仕事です。



<もうすぐ梅雨入り>



梅雨入り前の準備

▶停止距離⇒タイヤコンディションで変わる、タイヤチェックは毎日の習慣に！

▶カーブ⇒雨天時のインコース走行は危険！チリやゴミが溜まりスリップしやすい！

▶視界⇒ライト点灯！自分の存在を周りにも知らせる！

Q、雨の降り始めか上がった直後、どちらの方が事故発生率が高い？

A、**上がった直後**の方が事故の発生率が高い

意識の問題で、降り始めは意識が雨に集中するが、上がった直後というのは雨への意識が低くなります。しかし、**路面状況が悪い**ことは変わりません。そのため上がった直後の事故発生率が高くなります。**雨上がり後も緊張感を保っておく**ことが必要です。